

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立二里小学校		C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究（総合的な学習の時間）1年目の研修に取り組み、成果と課題を踏まえて次年度への研究に繋げていきたい。また、学力向上に関して、まずは「音読の力」をつけさせ、「はつきり読むこと」「正しく読むこと」ができる児童を育成し、基礎学力の定着を図る。 ・教育相談に関して、「教育相談」「特別支援教育部」「生徒指導」が相互に関わり、情報交換、情報共有を図りながら、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋げる。 ・地域人材、地域産業、郷土の歴史を取り入れた教材開発に取り組み、コミュニティスクールならではの教育実践を進める。		
2 学校教育目標	進んで学び、心やさしく、たくましい児童の育成 《校訓》心きびきび 精いっぱい		

3 本年度の重点目標	① 「わかる授業」を基盤とした基礎・基本的な学習内容の確実な定着（家庭との連携による基本的な生活習慣と学習習慣の確率） ② 学校及び家庭の教育力を高める組織的な教育相談体制の確立と個別の支援体制の充実（いじめの未然防止等を含む） ③ 運動の楽しさを実感できる体育学習の充実と運動の日常化（体づくりの奨励等）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「わかる授業」を基盤とした基礎・基本的な学習内容の確実な定着	○「授業中、めあてをもって学習し、学習した内容を振り返ることができる」と回答した児童80%以上	・ドリルタイムの効果的な活用や西部型授業実践ができるよう、学力向上に関する提案を行う。全国・県学習状況調査結果の分析を行い、授業改善を共通理解する研修を行う。						学力向上コーディネーター 研究主任	
	○校内研究を中心とした授業改善に向けた共通理解と共通実践	○「総合的な学習の時間・生活科の学習が楽しい」と回答した児童80%以上	・学習指導要領に根拠した学びや指導法、学習過程等の共通理解を図り、研修を取り入れることで授業実践を行う。						学力向上コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上	・ふれあい道德の実施(9月) ・道德科の授業づくりや評価、人権・同和教育の実践に関する校内研修等を実施する。	・		・		・	道德教育推進教師	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○教育相談及びいじめ防止等について組織的な対応ができていると回答した教員80%以上	・いじめ防止マニュアル等に基づいた未然防止と早期発見による共通理解を図る。 ・毎週の連絡会で情報共有を図り、必要に応じてケース会議を行い、職員全体で支援体制を整える。 ・生活実態調査を年に2回実施し、児童の状況を把握する。 ・教育相談月間で個人面談を実施し、児童理解に努める。 ・教育相談だよりの発行により、スクールカウンセラー等の教育相談の体制について、児童や保護者に理解を促す。	・		・		・	道德教育推進教師 生徒指導 教育相談	
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・全教育活動を通して、自分の夢や目標の実現を目指して意欲的に取り組もうとする態度を育むキャリア教育を推進する。 ・コミュニティースクールを活用し、学校と地域が一体となった体験活動等により、郷土への誇りと愛情を育む。	・		・		・	教頭	
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	・運動の楽しさを実感できる体育の授業づくりを行い、学習との関連付けにより運動の日常化を図る。 ・縦割り班活動を通し、体を動かすことの楽しさを取り入れた活動を実践していく。	・		・		・	体育主任	
●健康・体づくり	○望ましい食習慣と基本的な生活習慣の形成	○朝食の大切さを伝え、朝食を摂って登校する登校する児童を増やす。	・生活実態調査を実施し、食育に対する意識を向上させる。 ・ほけんだよりにて啓発する。	・		・		・	給食担当 食育担当	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 (月45時間、年間360時間)	・毎週金曜日を定時退勤日とし、17時施錠を原則とする。 ・働き方改革の意義をGW明けに職員全体に説明し、一人一人が自分の仕事のやり方を見直し、組織の中の一員として働き方改革を実施することを確認する。	・		・		・	教頭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○成績二期制に相応した学校行事や会議等のスリム化を図る。	○1つ以上の精選及び1つ以上のスリム化を行う。	・事後の反省をもとに振り返りを行い、改善策を考え、PDCAサイクルを機能させる。 ・ICT機器を使い、時間短縮を図る。	・		・		・	教頭	
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する知識や支援の在り方が向上したと考える教員80%以上	・個別の支援計画に基づく支援体制を構築し、校内の連携を図る。 ・特別支援教育に関する研修会、ケース会議等を開催し、情報の共有化を図る。	・		・		・	特別支援教育コーディネーター	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	
5 総合評価・ 次年度への展望	